

# 自分が将来何をやりたいのかを考えよう それに必要なモノやコトって何だろう？

2015年にノーベル物理学賞を受賞した梶田隆章先生。先生の母校・東松山市立南中学校の愛甲凜さんと、東松山市立東中学校の野口慶匠さんが、インタビュアーになって、気になることをあれこれ聞いてみました。



愛甲凜(あいこうりん)さん  
東松山市立南中学校  
生徒会長



野口慶匠(のぐちけいた)さん  
東松山市立東中学校  
科学技術部部长

中学・高校生時代は基礎をしっかりと学び  
広い視野を身につける重要な時期です

二人が訪ねたのは、梶田先生が所長を務める東京大学宇宙線研究所。広い敷地には研究棟が幾つもあります。

梶田先生は、ご自身の研究だけでなく、若い研究者の育成にも力を入れ、東松山市では「ノーベル物理学賞受賞 梶田隆章基金」を設立。また、若い学生たちに向けた講演会も市内で実施されています。2018年秋に開催された中学生向けの講演会には、愛甲さんと野口さんも参加をしました。

「難しい話を分かりやすく話してくれて、とても良かったです。だから、今回インタビューでお会いできるのを楽しみにしていました」と二人。そんな中、梶田先生が笑顔で部屋に現れました。

「自宅から野本小学校までの1.5キロメートルは何もなくて、冬は風に向かって帰るのがとても寒くてね」と、幼少期の思い出を話してくれた梶田先生。「幼いころは自然を相手に遊んでいました」とも。

先生のソフトな話し方に二人の緊張が少し緩んだところで、インタビューがスタートしました。

野口さん 僕は科学技術部で何百回も同じ実験をしています。好きで始めたことですが、飽きてしま

うことがありません。先生はそんなことはありませんか？

梶田先生 20年くらいニュートリノの研究をしてきたら、ちょっと飽きましたね(笑)。今は新しい目標を見つけたので、そちらに力を入れています。重力波の研究装置「KAGRA」を造るために、仲間と一緒に取り組んでいます。ぜひとも、日本で重力波を観測したいですね

愛甲さん 長い期間、一つの研究を続けていくにはたいへんなこともあり、気分転換をすることも必要だと思うのですが、先生の気分転換の方法を教えてください

梶田先生 おいしいものを食べる。好物はお寿司です(笑)。今は忙しくてリフレッシュの時間がとれないので、好きな食べ物を食べて気分転換をしています

いつでも幾つになっても  
好きなことは見つけられます

愛甲さん 先生はいつごろから宇宙に興味がありましたか？

梶田先生 大学院に入ってからかな。それまでは、特に宇宙に関する仕事に就きたいという明確な思いはなかったです



先生と一緒に館内の展示も見学しました

愛甲さん 先生がチャレンジを続けられる秘けつは何ですか？  
梶田先生 つまらないことを我慢してやらないこと。おもしろいことを見つけてやるということではないかな。嫌なことは続かないでしょう。ただ、勉強していく上ではつまらないこともあると思います。でも、それはしかたない。興味のあるものが見つけた時、その道に進めるように、中学生・高校生の時期には、いろいろと基礎をしっかりと学んで広い視野を身に付けていくことが大切ではないかと思えます。大学に入るまでに好きなことを見つければいいですよ

野口さん 僕はまだ将来進む道を決めていません。先生がおっしゃるように、好きなことを見つければいいと思います

梶田先生 好きなことは、いつでも幾つになっても見つけられます。頑張ってください！

愛甲さん しっかり勉強しないではいけない時期ですね

野口さん 先生の後を追えたらいいなと思っています  
二人の質問はまだ続きます。

仲間の存在の大切さ  
勉強以外の学校生活も楽しんで

野口さん カミオカンデで光電子増倍管が壊れるという事故がありました。そのとき先生はどんな

野口さん 僕も本は好きです  
梶田先生 それはいいですね。僕は、中学時代には部活動をしていなくて。その後悔から、高校では弓道部に入りました。二人には勉強はもちろん、それ以外のことも学校生活で楽しんでほしいと思います

野口さん 僕も本は好きです  
梶田先生 具体的に言うなら、科学者になる、ならないに限らず、英語を学んでほしい。世界はどんなグローバルになっていきますか

梶田先生 具体的に言うなら、科学者になる、ならないに限らず、英語を学んでほしい。世界はどんなグローバルになっていきますか

## 梶田隆章先生 Takaaki Kajita



1959年生まれ。東松山市出身。東京大学宇宙線研究所所長・教授。1998年ニュートリノ国際会議でニュートリノ振動の発見を発表。2015年ノーベル物理学賞受賞。受賞理由は「ニュートリノが質量をもつことを示す、ニュートリノ振動の発見」。同年、文化勲章を受章。2016年東松山市名誉市民。現在は、大型低温重力波望遠鏡KAGRAの責任者として重力波観測の研究に組み組んでいる。

## インタビューを終えて

愛甲さん 対談を楽しみにしていました。先生が優しく接してくれてうれしかったです。これからも幅広く勉強したいと思います。

野口さん 先生とこんなに近くで話ができ、とても楽しかったです。広い視野をもって、今できることをしたいと、改めて感じました。

## ノーベル物理学賞受賞梶田隆章基金

東松山市では、「未来を担う子どもたちに、もっと科学に興味を持ってもらいたい」という梶田先生の想いをカタチにするために「ノーベル物理学賞受賞梶田隆章基金」を創設。梶田先生からの寄附金を原資に、市民からの寄附を積み立てながら、より多くの子どもたちが科学(理科)に興味を持ってくれるように基金を活用しています。

### “3つの目的”に基づく事業の実施

1. 理科教育に対する興味の高揚
2. 科学の理論及び応用の研究に対する支援
3. 科学をはじめとする学習の拠点の整備

## Interview with Takaaki Kajita

What kinds of things are necessary when it comes to thinking about one's future?

Takaaki Kajita won the Nobel Prize in Physics in 2015. Rin Aiko, a current student at his old school, Higashimatsuyama Municipal Minami Junior High School, and Keita Noguchi from the Higashi Junior High School, met him for an interview about various things on their minds.